

「7さいめせんのこうつうあんぜん」の取組について

～子どもの視点で見直す地域ぐるみの安全対策～

佐賀県 道路課 道路安全推進室

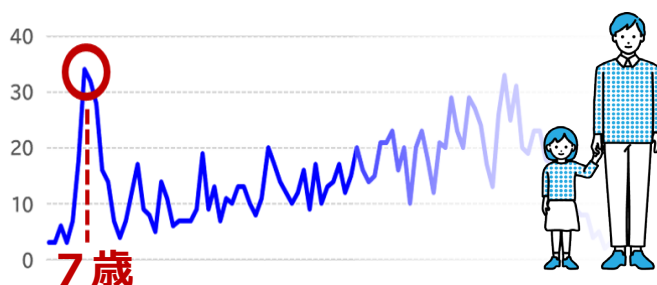
1. はじめに

朝の通学時間、大人にとっては気にならない道路でも、子どもにとっては一歩先が危険に変わることがあります。

私たちは日々、道路の安全を「大人目」で確認しています。しかし、その道路は、子どもたちにどのように見えているのでしょうか。この「目線の違い」に着目したのが、佐賀県の「7さいめせんのこうつうあんぜん」です。

近年、全国的に交通事故件数は減少傾向にあります。しかし、小学生、特に7歳前後の子どもが歩行中に事故に遭うケースは、依然として注意を要する状況にあります。

佐賀県でも、交通事故分析の結果、7歳の歩行中死傷事故が他の年齢層と比較して多いことが明らかとなりました。



【グラフ：佐賀県の歩行中の交通事故死傷者数 (R1～5 合計)】

「7歳」は、小学校入学を機に、保護者の付き添いによる移動から、子ども単独で登下校したり、外出する場面が増える時期。そこで、私達は、ここに交通安全対策の充実にに向けたヒントがあると考えました。

2. 「7さいめせんのこうつうあんぜん」とは

こうした背景を踏まえ、佐賀県では、新たに子ども、特に7歳の目線に立った交通安全対策に取り組むこととしました。

この取組では、実際に7歳の目線を見た道路や周囲の見え方、子どもの行動特性などを考慮して、保護者なども参加しながら、道路空間を点検し、改善につなげていきます。

こうした点検活動の中で、例えば、これまでの通学路点検において、

- ・見通しが確保されている
- ・標識が設置されている

- ・注意喚起がなされている

といった理由で「安全」と判断されていた箇所であっても、改めて7歳の目線で見ると、

- ・塀や植栽があって、車の接近が直前まで分からない
- ・停止線や標識が視界に入りにくく、その存在に気づきにくい
- ・交差点のどこが、どの場面で危険なのか理解しにくい

といった課題が見つかることがあります。

安全は、大人にとっての「見える」だけでは測れません。



【図-1. 大人目線と7歳目線の視界の違い（イメージ）】

3. 7歳児の特性と道路環境

7歳前後の子どもには、大人とは異なる身体的・認知的な特徴があります。

- ・目線の高さは大人より40～50cm低い
- ・視野は発達途中で、大人の約6割程度しかない
- ・縁石を歩く、側溝をのぞき込むなど、子ども特有の行動が見られる
- ・「危ない」「気をつけよう」などよりも、興味や好奇心によって行動が誘発されやすい
- ・車両の速度や距離感についての判断が未熟で不確かなことが多い



【図-2. 子ども特有の行動】

交通安全というと、子どもに対して「ちゃんと確認しなさい」「気をつけなさい」と注意するイメージがあるかもしれませんが、こうした子どもの特性を踏まえると、注意や指導だけでは限界があることがわかります。だからこそ、子どもや保護者に注意すべき箇所・警戒すべき場所などをあらかじめ「気づいてもらう」ことや、子ども自身が危険に「気づきやすい」道路環境を整えることが重要です。

4. 具体的な取組内容

〈7歳目線による通学路点検〉

佐賀県では、毎年実施している通学路点検において、子どもの目線で道路を確認するため、実際にしゃがんで、危険な箇所の点検を行っています。

この点検の中で

- ・どこに着目して点検すればよいのかが分かりにくい
- ・点検する人によって、評価に差が生じる

などといった課題が明らかになりました。

〈通学路点検チェックリストの作成と活用〉

そこで、子どもの行動特性などに詳しい専門家の協力を得ながら、モデル地区での現地点検や実際の通学風景の観察などを行い、「7歳目線」を取り入れた通学路点検チェックリストを作成しました。



【図-3. 7歳目線での現地点検の様子】

7さいめせんのこうつうあんぜん 通学路点検チェックリスト
点検で見つけた、子どもたちにとって危ない場所を投稿・共有してください

1. 子どもや車の視認性 (子どもから見える?車から見える?) [マップへ投稿](#)

① 子どもの目線から、車や自転車が見えにくい

② 車から、子どもが見えにくい
例えば電柱・標識・看板・植木
・ブロック塀などの障害物がある
カーブ・坂道など

重点チェック
しゃがんでみよう!
・横断歩道や出入口
・右左折する車から
隠れてしまう場所

通学路点検チェックリスト
<https://saga-blueproject.jp/nanasaimesen.html>

【図-4. 点検チェックリスト (抜粋及びリンク)】

本チェックリストは、道路管理者に限らず、学校関係者や保護者、地域住民が通学路を点検する際にも活用できる内容としています。

〈通学路点検のこれまでとこれから〉

これまでは学校が中心となって危険箇所をピックアップ、関係者が集まって現地を点検し、対策を検討していました。

今回の7歳目線を取り入れた通学路点検では、保護者等がチェックリストを活用して通学路を点検し、気づいた危険箇所を共有、その情報をもとに学校が危険箇所をピックアップします。そのうえで、関係者が集まって現地を点検し、対策を検討するということになります。

「一部の関係者だけで点検する」から、

「地域みんなで気づきを共有する」点検活動へ。

これが「7歳目線」を取り入れた通学路点検の特徴です。

〈「7さいめせん」に配慮した道路環境の整備〉

通学路点検で把握した危険箇所のうち、視界を遮る植栽の剪定・撤去や、水路への転落防止対策など、子どもの日常的な行動を踏まえて安全対策が可能な箇所については、道路環境や道路空間の改善に努めていきます。



対策



【図-5. 改善前後の比較事例】

〈地域・保護者との連携〉

施策の実効性を高めるため、市町や学校、警察などの関係機関に加え、地域住民や保護者との情報共有・連携を大事にしなが、気づきを共有しあう地域社会へとつなげていきます。

また、取組を進める中で得られた好事例を集約し、通学路点検チェックリストの改善・充実にも継続的に取り組んでいく予定です。

5. 期待される効果

本取組により、次のような効果が期待されます。

- ・子どもが周囲の状況を理解しやすい道路環境の形成
- ・通学路における歩行中事故の抑制
- ・地域や保護者が子ども達の交通安全に主体的に関わる意識の醸成

また、「7さいめせん」という考え方は、子どもだけでなく、高齢者や障がいのある方など、多様な道路利用者にやさしい道路づくりにもつながるものと考えています。

6. おわりに

「7さいめせんのこうつうあんぜん」は、啓発活動にとどまらず、道路を利用する立場に寄り添いながら、誰もが安心して通行できる道路環境の整備を目指す取組です。

子どもたちの元気な「ただいま！」を守るため、今後も継続的な点検活動と、その結果に基づく環境改善などを積み重ねながら、佐賀県ならではの交通安全対策として深化させていきます。



安心して歩ける日常を、地域みんなで支えていく社会へ。